

19/12/27 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣部会（第33回）

終了後の石垣部会記者会見

（名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし）

名古屋市：石垣部会の先生方からの会見という形で取材の方を受付させていただきたいと思えます。

質問のある方、挙手をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

記者：朝日新聞です。

今日部会をやられた。前回ですね、説明会の時に、千田さんの方から、石垣部会と名古屋市が方向性が完全に一致したというようなお話があったんですけども、あらためて部会としてですね、座長の方にですね、その辺のご認識をちょっとお願い致します。

北垣：今のご質問ですけど、石垣部会としてはですね、従来から、一つの方針を持っておりまして、これは特別史跡としての名古屋城の本質的価値とはいったいなにかと。これは縄張り、そして、石垣にあると。こういう言い方をずっとつづけてきているわけですね。その中でも天守台という、ところがでてきたときにはその石垣、で申しますとですね、これはやはり安土城以来の伝統的な穴蔵、高層、それまでが本質的価値であろう。

こういう認識であります。

一方ですね、木造復元天守案、これが示される中で、石垣部会としてはですね、当然のことながら、それに先だつその石垣の保全、これに必要な調査、それは、先ほどいろいろ議論がありましたようにですね、内堀の発掘調査。

さらには、これからも必要となってくるでしょうという文献調査等も入ってきますよね。

そういうことをこれまでしようとしてるわけですね。

11月4日の日曜日にですね、石垣部会は市長とは、市長と初めて面談させていただいたわけですね。

で、市長からはですね、「これからは文科庁から指摘事項、これは今回検討していただきましたけれども、その検討事項を踏まえて、石垣部会の指導に従うと、こういう旨の発言がありました。

当然そういうことの中で石垣部会としてもですね。市長から示された木造復元天守について理解をしました。こういうことでもあります。従って今日の部会におきましても、そういう理解のもとにですね、石垣部会としては、議論を進めさせてもらったと。こういうことです。はい。

記者：ありがとうございました。

前回のその説明会のときにですね、千田先生から、そういう話、個人的な見解というお話

がありましたけれども、必要な調査が年度内にはある程度めどがつくんじゃないかという認識を示されましたけれども、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。

千田：今の質問は不正確です。

記者：ごめんなさい、どのようにおっしゃったかあらためて教えていただけますか。

千田：そのときの記録をみてください。

記者：わかりました。

記者：前回和解というか、まあ市との話しで、ある程度合意がなされたというところなんですけれども、今までも市の発言の中でですね、石垣部会との関係修復ってことはずっと言われてきたんですけれども、なかなかうまく行かない状況がこれまで続いていた。今日の部会を終えてみて、その辺市の姿勢についてなにか感じたこととか含めて、ようするに大丈夫ですかというかですね、その点はいかがでしょう。

宮武：ちょっと修正しなきゃいけないのは、対立とか関係修復って言い出したのはあなたたちです。部会で対立しているなんてことは一言も言ったことがありますか。

和解とか。ないですよ。マスコミさんはそういう対立軸楽しいですから。

今回和解の手打ちにしたいんでしょうけれども、先ほど座長が申し上げた通り、我々石垣部会は、当初から一貫して木造天守であろうと、鉄筋コンクリートの天守を残そうと、現状有ろうと、どんな選択肢であっても天守台に負担があるかどうか、特別史跡を構成している石垣の健康度、維持というものが現実どうなのかという調査が必要だということを繰り返してるわけで、どこで対立、和解という言葉が出てきたんですか。

我々は1回も使ったことがないけれども、おたくたちが使ってませんか。結局、噛み合っ
てなかったのは、できるだけいろんな事業を急ぎたいというふうに市長さん以下名古屋市
さんは進めようとしてきた。

我々は文化財保護法に基づいて、文化庁の主張内容を踏まえて、一つ一つクリアしてい
かなければ到達しませんよということでその主張をしてきた。それだけです。

今回、その指導に基づいて、やはり名古屋市さんはもうやり方をもう1回考え直して、ク
リアしなければならぬハードルを一つ一つ済ませていきますよというご発言を市長さん
はされた。

我々石垣部会は元々主張している、そうやってくださいということをおっしゃったんです
から。和解も何も。どこが。どういう問題ですか。逆におたくに聞きたいんだけど。
対立してたんですかね。

記者：対立していたどうか、意見が違ってたのかなあっていうふうに

宮武：そりゃそうですね。ディスカッションの会議ですから、うん、だからそのように対立から和解というような図式で書かれると経過をご存じない、県民市民国民の方々は、いろんなストーリーを考えてしまう、ミスリードをしていただいでは困るんです。よろしいですか。

記者：じゃあもう少し正確に伺いますけど、さっきその木造計画について、なんていったっけ、市長から示された木造復元について理解を示したっていうふうに、北垣先生おっしゃいましたけど。この意味合いっていうのはどういうことなのでしょう。

北垣：いや特段ね、申し上げることでないと思うんですね。私の立場で言うとおることは、先ほどから繰り返しですね。元々。どこの城郭でもそうですけど。

ここの場合は特別史跡ですよ。もういわゆる史跡中の史跡、こういう理解ですよ。ですから、石垣部会に与えられた、要するに石垣を保全していくためにですね、何が必要かということですから。全くくるってません。

おそらくどっからそういういろいろなことを言われても狂ってませんから。

うん。いや、考え方が全然変わってないということですよ。

だから理解というたら何かあたかもね、今初めてそういうふうに変わっていったというような、またこれ今、宮武先生が言われるような話になるので、そういうことはないんですよ。元々。

極端な言い方をしたらね、名古屋市さんの方が、やっぱり文化財ということに対してですね、しっかり向かいあってくると。こういうことを示されたということなんですよ。

それだけです。

宮武：今、座長に誤解の無いように。木造天守が賛成反対も一度も部会でも議論をしてませんし、言ってないです。今回の座長が言われた木造天守に関しての市長のお考えに一致したっていうのは、省略した言い方なわけで、「木造天守事業を進めるために踏まえなければならないプロセス、これを順番にやっていきますよ」っていう方向性で一致したということです。

だからこれを逆にいうと、木造天守がいいのか、あるいはRC復元にするのか、VRにするのか。鉄筋コンクリートをおいとくのか。これもいろんな選択肢の中の一つですが、どれにしたって、今の天守台ですとか、特別史跡が大丈夫か、健康か、これを丁寧に調べていきますよっていうお考えを市長さんが示したことに一致したということです。よろしいですか。

記者：わかりました。

記者：ちょっとすみません、僕が最初に言おうとした質問の趣旨なんですけれども、そういうまあ要するに今の特別天守っていうのをちゃんと調べていくという市の姿勢っていうのは、今日の部会ではちゃんと感じられるものだったかどうかっていうのをちょっと伺いしたかったんですけれども。その点はいかがだったのでしょうか。

赤羽：あの、そうですね、前回の話し合いの中で、とにかく名古屋城のやっぱりなんといえますか、保全、価値を、ということについて、やっぱりあの一致して向上を図っていこうということでは、名古屋市側と私どもが一致していると思うんですけども。今日の話し合いについてはですね、やはり石垣ファーストというふうに度々市長はじめおっしゃることから言えば、まだまだ不十分である。

いろいろ各先生のご質問が出されましたけれども、石垣ファーストというにはまだ、端的に言うと、とにかく具体性のない提案だったというふうに私は考えてます。

方向性としては前回の話を通して有益だったことは否めませんが、だからといって今日の話し合いが非常に進んだものである、一歩超えたものであるというふうに私自身は受けにくい、そういう状況です。

ですから、石垣ファーストというのであれば、石垣ファーストを実態で示してもらいたいというのが今日の私の会議の結論です。

名古屋市：会場の時間もありますので、もしなければここで一旦切らせていただきますがよろしいですか。はい。では先生方ありがとうございました。

続いて名古屋市側も少し取材の方を受け付けさせていただきますので。